

「精神疾患のある方への関わり方

～疾患の基礎知識と知っておきたい対応ポイント～

研修会報告

この研修会は、精神疾患について正しい知識を持ち、対応のポイントを理解し支援できること、個々が保有する情報を共有し可能な支援について考えられることを目的として開催しました。今回は会場のみで開催し、8グループに分かれてグループワークも実施しました。多職種46名の方がご参加くださいました。

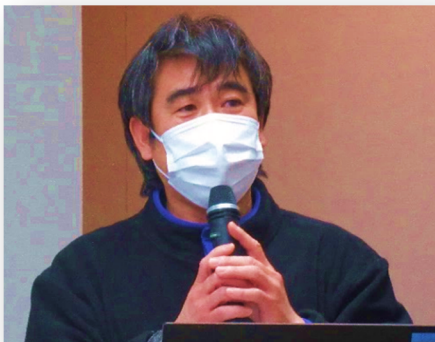
開催日:2025年2月22日(土)
14時～16時 医師会館中ホール

講義のポイント

かわい まさき
講師 **河合 正樹** 氏

株式会社茉莉花
訪問看護ステーション支援太
精神科認定看護師
WRAP ファシリテーター

- 「困った人」ではなく「困っている人」である
- 問題点と思えることの背景に目を向けることが必要
- リフレーミングの視点（良いところ、できているところに着目した「応援」や「支援」に転換する）
- 支援者の病識（病気に関する知識、病気になった人への知識）→硬い理解（疾患に関する知識と理解）、柔らかい理解（個別性を重視したその人の理解）
- 変えるのではなく、気付きを促す関わり方が大切
- カンファタブル・ケアの実践
- 寄り添うとは…語り合うこと
- 最も効果的なサポートは聴くこと



参加者の皆さまからの声をご紹介します (アンケートより)

- ▣ 問題点ばかりみて、その背景に目を向けていなかった
- ▣ 支援に関する困りごとに対してみな同じような意見があり共感できた。電話が頻繁かつ長いことに悩んでいたが、対応方法について参考にできると思った。
- ▣ 現場での実体験を聞くことで自身の利用者を想像できた
- ▣ 日頃の自身の関わりに、反省と気づきがあり、その事を踏まえて関わっていききたい。
- ▣ 病感はある方がほとんどのため、その困りごとに沿ってアプローチしていきたい。
- ▣ 信頼関係があれば怒ってもいい、というメッセージで気持ちが楽になった。精神疾患だからと気を使いすぎていた。
- ▣ 普段の関わりの中でどのようにコミュニケーションを図ると安心して頂けるかいつも悩んでいる。今回の学びを少しでも取り入れ、よい関係性を築いていきたい。

*R7年度も、医療・介護専門職を対象とした様々な研修会を企画しております！お楽しみに★